

～『5s』と『2M』から始まる世界基準の農業を実践～

<基本情報>

- 所在地：茨城県桜川市
- 取組開始：平成29年

<経営概要>

- 経営面積：12ha
- 構成員：104名
- 主要作物：ブドウ、イチゴ他

<認証GAP>

- 令和元年11月 GLOBALG.A.P.認証取得>



<生産効率の向上に向けた取組とその効果>

○農作物の収穫手順や方法、農産物の調整手順や出荷方法を事前に説明するとともに、関連施設に手順書やマニュアルを掲示した。特に調整・出荷の際には、作業者によるバラツキを減らすために、適合品と不適合品、規格などを画像で示したことにより、農産物を均一で安心・安全な商品として扱えるようになった。



<GAPに取組んだきっかけ>

○2021年の東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、本校の農業の技術力と農産物の質の高さを世界に発信できる機会と捉え、令和元年度にブドウでGLOBALG.A.P.認証を取得。また、国際感覚豊かな起業家精神の醸成、さらに世界を意識した農業経営者の育成のためには『輸出』が重要であると考え、令和3年度にイチゴも新規認証を取得。



<地域の内外への波及に向けた取組>

○GLOBALG.A.P.の審査を公開審査とすることで、県内の農業高校教員や農業関係機関の職員が見学を訪れ、県内のGLOBALG.A.P.認証先進校としての役割を果たしている。
○GLOBALG.A.P.認証品目であるブドウをマレーシアへ(R4. 10)、イチゴを台湾へ(R5. 2)それぞれ輸出し、複数のメディアから取り上げられ、認証を活用した新たな活動として紹介。



<GAPの取組の基本方針>

○『5s』“整理・整頓”、“清掃・清潔”、躰(習慣)による効率化と持続性の確保。
○『2M』“見える化”と“マニュアル化”による安全・安心で持続的な生産と供給。
[見える化]農場内での注意喚起事項や危険箇所、各施設の名称や使用方法などを明確化し、透明性のある農場を運営。
[マニュアル化]誰でも理解し、実践できるように作業の手順書やルールをマニュアル化し、それらを生産関連施設に設置。



<教育機関における地域の牽引役としての貢献>

○GLOBALG.A.P.認証取得を目指す教育機関への指導・助言を実施。
また、農場で小・中学生に農業体験の機会を提供し、農業の魅力を発信。
○認識取得により海外輸出を実践したことで、グローバル化に対応した農業教育の実践事例としてGAPの普及促進に貢献。



～有機農業で人を育て、持続可能な農業の理解者、応援団を育てる～

<基本情報>

- 所在地：東京都多摩市
- 取組開始：平成6年
- <経営概要>
- 経営面積：0.73ha(教育農場)
- 構成員：300名
- 主要作物：野菜、果樹、花き



<効率的な生産に向けた取組>

- 限られた面積の教育農場を効率的に活用するため、学生2人1組で1年間決められた区間の管理を徹底させ、10品目以上の農作物を栽培。
- 気象条件に合わせた作付体系を選び、資材は自然界にあるものを基本に活用。
- 夏季休暇中は畑を休ませて、その間に生えた雑草は学生が刈って積んでおき、枯れたものを野菜の根元に敷いて草マルチとして利用。



<地域内外・他業種と連携した安定出荷・販路確保の取組>

- 栽培に必要な堆肥は近隣の畜産農業者、造園業者等との連携により調達。
- 教育農場で収穫された農作物は、大学祭、オープンキャンパス、地域イベント等で地域住民に販売されるとともに、大学内のオーガニックカフェでも利用、販売。



<地域内外の消費者等への情報伝達の取組等>

- 農場での実習や販売以外の活動として、オーガニックレシピの開発とレシピ本の製作、子育て支援施設での親子有機野菜教室の開催、水田再生のための里地里山プロジェクトの実施など、地域内外の消費者への情報発信を展開。
- 多摩市農業委員会、農業者等の農場視察を受け入れるなど、地域への情報発信や意見交換等を展開。

<地域のリーダーとしての人材育成活動>

- 教育農場で有機栽培により健全な野菜が育つことを体験し、卒業後、有機農業のよき理解者として、有機農産物等を食べ支える消費者として有機農業の普及・拡大に寄与。卒業生の中には、有機農産物などの販売に直接関わっている者や、有機農業者となって活躍する者もいる。



<教育機関や地域が一体となった人材育成活動>

- 平成28年から有機農業を通して、「地域を支える・地域が支える・地域とつながる」取組として、農場の一部にCSA(地域支援型農業)で運営する持続可能なコミュニティ菜園を開設。地域の消費者等から募集したパートナーやサポーターには、有機農産物の定期出荷や畑活動への参加受入れを実施し、多様な人や世代が集う場となっており、人材育成の拠点となっている。

長野県富士見高等学校

～富士見から世界へ グローバルトマト～

<基本情報>

- 所在地:長野県諏訪郡富士見町
- 取組開始:平成29年

<経営概要>

- 経営面積:2a
- 主要作物:水耕栽培トマト(フルティカ)



<GAPに取り組んだきっかけ>

○栽培管理から販売までの工程において、環境に配慮した農業を意識した授業展開を行うことを目的として、5年前から園芸科が、トマト水耕栽培(ガラス温室2アール)のGLOBALG.A.P.認証に向けた取組をスタート。

○授業の中では、生産物の高品質化や流通に至るまでの生産工程管理の学習を通じて、GAP経営管理や情報管理などの必要性和消費者ニーズへの対応について生徒に学習させ、各種の野菜経営に応用できる体系的な知識と技術の習得をカリキュラムとして取り入れた。

○取得に向けて、青森県五所川原農林高校へGLOBALG.A.P.本審査の視察に行き、2018年1月に長野県内の農業高校で初のGLOBALG.A.P.を取得。

<栽培管理の実践>

- トマト水耕栽培では、GLOBALG.A.P.の管理基準を守りながら、総合的病害虫管理を取り入れ、工程管理を実践。
- 温室に入る際は、手洗い、食品用ゴム手袋の着用を習慣づけることとし、収穫用コンテナや机のアルコール消毒を徹底。

<食品ロスの軽減>

○食品ロスを無くすために、地元の菓子店と連携して出荷できない規格外トマトを活用し、トマトシロップに加工して最中の餡に練りこんだ「高原の赤いルビー」として開発販売したり、飲食店で規格外トマトをカレーの食材として使用してもらうことで、規格外トマトの廃棄率を18.2%から1.7%に減少させた。



高原の赤いルビー最中の完成

<地域内外の関係者との交流・連携>

○長野県屋代南高校とトマトや野菜を使った料理メニューの開発を通じた交流を図り、GAPトマトを使用し、考案されたメニューが全国高校生和食グランプリ審査員特別賞を受賞。

○2022年2月には、地元のロータリークラブが主催したSDGsに関する講演会において、園芸科GAPチームの取組を講演。

○同校のトマトがふるさと納税の返礼品として扱われ、地元の富士見町のPRと税収の増加に寄与。

○町の博物館(高原ミュージアム)で「富士見から世界へグローバルトマト」と題して企画展を催し、GAP普及活動とGAPトマトの販路拡大の取組を実施。



屋代南高校にて おもてなし料理試食会



～微生物農法の推進と参加型循環社会を目指して～

<基本情報>

- 所在地：長野県上高井郡小布施町
- 取組開始：平成29年

<経営概要>

- 経営面積：52a
- 主要作物：玉ねぎ、とうもろこし、丸なす、りんご、もも、プルーン



<環境負荷低減に資する取組>

- 果樹は減農薬栽培、野菜は農薬・化学肥料不使用の栽培に取り組む。果樹では若い枝を使う切り上げせん定を行い、樹を健全に保つ減農薬栽培を実践。
- 土着微生物を採集し培養した発酵液から、微生物資材を製造し、土づくりと作物の生育促進に活用。
- 野菜残さや落ち葉を利用した堆肥や、稲わらや米ぬか、落ち葉を利用した踏み込み温床による苗床を自作。畜産農家に野菜残さ等を飼料として提供し、畜産堆肥の提供を受けるなど、地域内での資源循環にも取り組んでいる。



<効率的な生産に向けた取組>

- 福岡県の農業者が作成した、針金の熊手を改造した「ハウキング」という道具を使用。自身の畑の形状や使いやすさに合わせて改良を施し、除草作業の負担軽減と除草剤不使用に取り組む。
- 畑は1年2作（春・秋野菜）でローテーションを組み、限られた面積で効率的な生産を行っている。

<地域内外・他業種と連携した安定出荷・販路確保の取組>

- 地域支援型農業の実践のため、畑を開放して一般住民等の労力提供（除草作業など）の対価として農産物を提供。
- 自然食品の販売や料理教室などを行っている静岡県の会社に野菜や果物を販売するほか、社員に農作業を手伝ってもらったり、料理教室に有機野菜や果物を提供する等の交流を図る。
- 講師を招き、シードバンクと自家採種についての勉強会を開催。有用な野菜種子の安定的な供給体制の確立を目指す。

<地域内外の消費者等への情報伝達の取組>

- 町内外の市民を対象に、微生物農法による家庭菜園教室を開催。SNS等も活用し、理念や活動の情報を発信。
- 野菜の収穫などの農作業体験や、採れた農産物をすぐに味わう実食のイベントを開催し、消費者の有機農業に対する理解を図っている。



<地域の小学生への食育活動>

- まちづくり委員会の環境を考える部会の活動として、町の小学生に対し、野菜の残さや落ち葉などを用いた堆肥作り、伝統野菜（小布施丸なす、小布施辛味大根等）を栽培する食育活動を行う。令和4年には小布施丸なすを学校給食に提供。

